

働く男のライフスタイル情報紙

Biz LifeStyle

[ビズスタ]

2016 11

特別版

『BizLifeStyle』は東京、神奈川、名古屋、関西、京都・滋賀、仙台、福岡にて55万部発行
下記URLまでアクセスを。

www.biz-s.jp

広告掲載に関するお問い合わせ・申し込みは
TEL.03-6854-7001 FAX.03-6854-7005

企画・制作 / 株式会社ティリススポーツ案内広告社
〒110-0015 東京都台東区東上野4-8-1 TIXTOWER UENO 14F
© 2016 DAILY ADVERTISING AGENCY CO.,LTD



PANERAI

スイスメイド、イタリアンデザイン。

今年のSIHHで発表された最新作が札幌に初登場！
人気の定番品も一堂に集結するパネライウォッチの祭典

PANERAI COLLECTION

2016.11.16 Wed. - 11.22 Tue.
大丸札幌店 1階ステージ前 特設会場

ルミノール マリーナ 1950
3デイズ オートマティック アッチャイオ
PAM00312 P.9000キャリバー
自動巻き 44mm 30気圧
790,000円(税別)

My Favorite Life Style



パネライウォッチの初期デザインはイタリアのスイスを生み出すが、ムーブメント・機軸部の製作はスイスのヌーシャルテルで行われている。つまり、イタリアとスイスをまたがる「マニファクチュール・ムーブメント」の両者を自社で製造する時計メーカーという珍しい体制を取る。

「マニファクチュール」としての道を踏み出したのは2000年のこと。初の完全自社製ムーブメントはその後3年後に完成。8日間パワーリザーブとGMT機能を搭載する「Luminor」を得て、イタリアンデザインとスイスの時計開発技術という「ハイブリッド」を完全に確立する。2012年

14年にはヌーシャルテルの丘陵地帯に位置する「ピエール・アポルト」に新拠点を開設。研究開発部門の「アイデア」の工房に優れた技能を集約したことで、そのエンジニアリング技術と伝統のクラフマンシップの融合が、いよいよ融合の歩みを進めた。

豊かな物語を持つ「タイムヒストリー」

いきなり民生品の量産体制を敷くのではなく、時代とともにゆっくりと技術を磨き上げてきたブランドだけに、すべてのモデルに「ストーリー」があることもパネライウォッチの特徴だ。もはや海軍のために開発された前述の「ラジオミール」その後

継とつた水素アイソトープを原料とする特許取得の発光性物質を使用した「ラジオミール」は、現在も「ラジオミール」が発売されている。これら「ラジオミール」を現代化するの、研究開発部門の役割。試作品をもとにエンジニアで構成された委員会を組織し、入念な分析を経た上で製造へと移行する。専門の職人が行うが、ケースづくりだけでも約130時間もの作業が発生するという労作。下の写真は同社の最新コレクションだが、いずれも「ラジオミール」の存在が共有する知的財産。その存在が、パネライウォッチの魅力だ。

イタリアの機能美に育まれた 時計デザインの歴史



ラジオミール 1940
3デイズ オートマティック オロロツ
PAM00573 P.4000キャリバー
自動巻き、45mm、5気圧防水
2,380,000円(税別)

スイスの工房で仕上げられる マニファクチュール・ウォッチとして

Biz Life Style Pick up >>> SIHH(ジュネーブサロン)2016で発表された注目の最新作! 大丸札幌店の「PANERAI COLLECTION」でお目見え!



ラジオミール 1940
3デイズ GMT オートマティック
アタッチャイオ
PAM00627 P.4001キャリバー
自動巻き、45mm、10気圧防水
1,230,000円(税別)



ラジオミール 1940
3デイズ オートマティック
アタッチャイオ
PAM00655 P.4000キャリバー
自動巻き、42mm、10気圧防水
1,050,000円(税別)



ルミノール 1950
3デイズ アタッチャイオ
PAM00663 P.3000キャリバー
自動巻き、47mm、10気圧防水
1,070,000円(税別)



ジョヴァンニ・パネライが最初にオープンした「G.パネライ & C時計店」は、何度か移転を繰り返した後、サン・ジョヴァンニ広場の大司教宮殿内に店を構えることになる。左の写真に写っている人物は、ジョヴァンニと本人、こうして比べると、現在も店舗の基本的なデザインは大切に継がれていることが分かる。



サンタマリア・デル・フィオーレ大聖堂でパネライウォッチが1443年に描いた24時間一周する有名な文字盤。この修復作業を支援したのが「オフィチーネ・パネライ」だ。

小さく、軽く、薄く、あらゆる製品分野で変遷の潮流ではあるが、高級機械式時計は、盤面が広く取られているものが多く、これは「時計」の存在感を発揮する「プレジデント」な存在ではない。

その「プレジデント」は、数ある時計の名門群と並べても明らかに異彩を放つ。シンプルなのに、またたく間に、世界にその名を知らしめた。人たちの目を惹きつける。何となく、独特な世界観を構築する「オフィチーネ・パネライ」は、スイスで磨かれた高度な技術が投入された高級ウォッチ。だが、世界的に名声を集めるそのルーツには、イタリアのデザイン文化が深く関わっている。

海軍で鍛えられた高度な技術

「オフィチーネ・パネライ」の歴史は、1860年に遡る。ジョヴァンニ・パネライが「ラジオミール」時計店を開業したのが始まりだ。時計づくりの工房も兼ねたこの店は、

「ラジオミール」は初となる時計学校としての役割も担った。マクヘと成長したイタリア海軍に精密機器を納入した。1906年に第1潜水隊特殊部隊工員のために、軍用特殊部隊「ラジオミール」を創設している。これが大きな転機をもたらすことになる。

計器や装置の文字盤を発光させるために、自社開発した特許取得の夜光塗料「ラジオミール」を使用し、より優れた光度を実現するために、文字盤構造の改革への起点となった。この画期的な試作品は2年後の1908年に製品化されているが、現在まで続く同社の看板モデルの「ラジオミール」のルーツとなっている。その後、一手首装着型水深計、深海で優れた耐性を発揮する水圧補正付き水中フラッシュライトなどを次々と開発。そして海軍用の時計開発の歴史が「パネライウォッチ」の技術的基盤となったのだ。

「オフィチーネ・パネライ」が世界的に脚光を浴びたのは、1993年に初めて発表された「ラジオミール」の時計コレクションだ。もともと軍用の時

計開発で成長してきたため、機能的には本数割がたおさめられているが、何よりも無駄な装飾を削ぎ落としたようなデザインは、ウォッチ市場に衝撃を与えた。これは、1920-1940年代の建築デザインを踏襲したイタリア合理主義が色濃く反映されたものだった。

「祖国」イタリアへの溢れる愛情

「オフィチーネ・パネライ」は初の直営店を2001年にオープン。場所はフィレンツェのドゥオモ広場のサン・ジョバンニ礼拝堂に面した立地というのだから、たまたまふりが取れる。また、フィレンツェにゆかりのある「ラジオミール」のオマージュとして、天文時計「パネライ・ラジオミール」を製作。永久カレンダー機能を搭載した天文時計で、2010年に「ラジオミール」の時と同様に、地球から見た太陽、月、木星と、その衛星の位置を示している。現在、世界に3台しか存在しない稀少品で、うち1台は「ラジオミール」博物館に寄贈されている。

My Favorite Life Style



ルミノール 1950
クロノ モノプルサンテ
8デイズ GMT チェラミカ

PAM00317 P.2004キャリバー
手巻き、44mm、10気圧防水
2,270,000円(税別)



ルミノール 1950
3デイズ GMT
パワーリザーブ オートマチック アッチャイオ

PAM00321 P.9002キャリバー
自動巻き、44mm、30気圧防水
940,000円(税別)



ルミノール ベース
8デイズ アッチャイオ

PAM00560 P.5000キャリバー
手巻き、44mm、30気圧防水
640,000円(税別)

パネライウォッチの定番 「ルミノール」コレクション



前ページで少し触れた「ルミノール」は、1950年代に開発されたモデルがオリジナルだが、1993年の初コレクションでもシリーズのひとつとして組み込まれていた。プロフェッショナルダイバーズウォッチとして開発された歴史的モデルの復活とあって、すぐに時計コレクターの間で高い評価を集めた人気モデルだ。

特徴は、リュース(つまみ)を守るために設けられた巨大なプロテクター。ビッグフェイスとあいまって、どんな存在感を発揮しているが、単にノスタルジックなだけでなく、先端的なシンプルモダンにまとめるのが、パネライウォッチのデザインの真骨頂だ。

現在は、世界の愛好家の定番となっているルミノール。各モデルに搭載されたキャリバー(ムーブメントの形式番号)は、もちろん自社製だ。いずれのモデルも、基本デザインはかつてイタリア海軍の特殊潜水部隊のためにパネライが製作した初代モデルの美観が厳守されている。創業地であるイタリアへの敬意にも同じことが言えるが、メソンの出自や成長経緯を大切に守護する姿勢こそが、オフィチーネパネライの人気を決定づける最大の要素と言えるだろう。



変わらぬ海への情熱 大規模ヨットレースの主催

上記のオフィチーネパネライ特有とも言える伝統継承の姿勢は、もうひとつ、大きな成果を生んでいる。イタリアの文化、スイスの技術とともに、同社のキーワードである「海へのリスペクト」。海で使用することを目的として誕生したメソンの歴史への想いは、世界的なヨットレースとして結実しているのだ。

「パネライクラシックヨットチャレンジ」は、2005年から始まったレースシリーズだ。大小多様なヨットが参戦するビッグイベントで、アンティープやアルジェンタリオ、ポートマオン、カンヌといった地中海周辺の主要都市で1年を通じて開催されている。

また、ヨット史上に名を刻む船舶設計士ウィリアム・ファイフ3世が建造した「アイリーン号」を自社で購入し、丸3年を費やして修復。建造当時の美しさを取り戻して海への凱旋を果たしている。このヨットの建造年は、1936年。それは、あのラジオミールの試作品が誕生した年でもある。

今回は、最新作と定番モデルを掲載したが、これらのパネライウォッチは大丸札幌店で開催されるコレクションイベントで出会うことができる。またとない機会なので、ぜひお出かけを。

本紙掲載のパネライウォッチは、11月16日～22日に大丸札幌店 1階ステージ前 特設会場で開催される「PANERAI COLLECTION」で!

□お問い合わせ先
オフィチーネ パネライ ☎0120-18-7110
受付時間/11:00～19:00 土日祝休

www.panerai.com